

「理想科学工業 環境経営報告書 2017」 第三者審査報告書

理想科学工業 株式会社
代表取締役社長 羽山 明 殿

2017年7月18日
テュフ・ラインランド・ジャパン 株式会社
代表取締役社長 トビアス・シュヴァインフルター



1. 審査の範囲及び目的並びに対象

テュフ・ラインランド・ジャパン 株式会社（以下当審査機関という）は、理想科学工業 株式会社（以下、組織と言う）が作成した『理想科学工業 環境経営報告書 2017』及び『WEB掲載の環境データ』に関して、

- ・ 環境報告及び環境パフォーマンス、環境会計に関する情報にて、算出、集計方法の合理性と数値の信頼性及び、記載内容の妥当性
- ・ 環境報告にて、重要な情報が洩れなく開示されているか

について、独立した第三者機関の立場から審査を行いました。審査目的は、その結果を報告し結論を述べることです。

2. 審査の手続き

当審査機関は、組織との合意に基づき、次の手続きで審査を実施致しました。

- (1) 環境マネジメントの概要：組織の状況、運用の概況及び収集されるデータ項目を把握し、検討致しました。
- (2) データの収集・集計および報告の過程：環境パフォーマンス指標及び環境会計指標について、作成の基礎となる情報・データの収集過程・集計方法を検討致しました。
- (3) データの正確性：環境パフォーマンス指標及び環境会計指標について、サンプリングしたデータを根拠資料と照合し、整合性を確認した上で、データ・計算の正確性を検討致しました。
- (4) 記載情報の正確性、重要な情報の網羅性：作成責任者への質問、現場視察による状況把握、内部資料および外部資料との比較検討を実施し、報告書に記載されている記述情報について、正確性及び重要な情報が網羅されているかについて、確認致しました。

当審査機関の報告書審査プロセスは、当社 ISO 9001、ISO 14001 の現地審査、組織の報告書ドラフトの文書審査、組織の現地での報告書審査、是正処置要求項目の是正が実施された組織の報告書最終稿の確認、により構成されます。審査のプロセス及び、審査の過程に於ける是正処置要求と組織の対応の概要及び結果報告の詳細は精査され、ISO の審査登録の状況については当審査機関のホームページ（<http://www.tuv.com/>）に公開されています。

以上の手続きの結果、当社は結論を表明するための合理的な基礎を得たと判断しています。

なお、審査基準として、環境省 環境報告ガイドライン、GRI サステナビリティリポーティングガイドライン、環境省 環境報告書作成基準、を参考としていますが、ガイドラインへの準拠性を認証するものではありません。

本報告書現地審査訪問拠点：筑波事業所

ISO 9001:2008 及び ISO 14001:2004 における現地審査訪問拠点：

コーポレート本部一事業所（田町/コーポレート本部・環境活動推進部、筑波/品質保証部、理想開発センター/知的財産部）、
プリントクリエイト事業部一事業所（新橋）、海外営業本部一事業所（田町[徳栄]/海外技術部）、営業本部一事業所
（田町、田町[徳栄]/技術統括部、芝浦/営業教育部）、開発本部、製造本部一事業所（筑波/筑波工場・第一技術部・第二技術部
・製造企画部・物流部・購買センター、霞ヶ浦/霞ヶ浦工場・理想パーツセンター、宇部/宇部工場・物流部宇部出荷センター）、
不動産事業部（14001のみ）

3. 結論

以上の手続きを計画通りに実施し、審査の過程で要求した是正処置が適切に実施されることを約束された結果、当審査機関は、『理想科学工業 環境経営報告書 2017』及び『WEB掲載の環境データ』が、一般に公正妥当と認められる環境報告書作成ガイドラインの一般的報告原則に照らして、正確に数値算出されていると結論致します。

4. 意見

【総評】

(公財)日本環境協会が主催する「エコマークアワード2016」において、A3対応の高速カラープリンター「ORPHIS FWシリーズ」が「プロダクト・オブ・ザ・イヤー」を受賞されました。同賞では、特に環境性能や先進性、環境に配慮したデザインなどに優れた商品が表彰され、2015 - 2016年度に認定された全てのエコマーク認定商品の中から選出されました。

インクカートリッジ及び機器本体の回収・リサイクル等を推進し、国際エネルギースタープログラムの標準消費電力量の基準値を大幅にクリアすると共に、高速機では適合が困難とされていたVOC（揮発性有機化合物）などの放散に関する基準値をクリアしました。製品を使用する段階のオフィス環境に配慮したユーザー本位の姿勢が結実し、環境性能を磨くことで製品価値を大きく向上させ差別化した好例です。

さらに、影響力が大きいブルーエンジェル(ドイツの環境ラベル)との相互認証制度が適用された最初のエコマーク商品であり、国際的な展開を見据えた高い基本性能と環境性能の両立は好意的に受け止められるでしょう。

【環境マネジメント関連】

まず、環境データの正確性については年々改善がみられます。但し今回も一部不正確なデータが残っていましたが、これらは修正済みですので報告書及びWEBの開示データは十分信頼できるものと評価します。今後は、更に改善の余地がありますが、改善すべきポイントは把握できましたので今後活かされるものと期待しています。

次に、メーカーとしての最大の使命は、環境に最大限の配慮をした製品をマーケットに供給して貢献することです。例えば、省エネルギー・省資源・脱有害化学物質等をテーマとして鋭意取り組まれていることは成果として確認するとともに高く評価します。今後は、PDCAを回して、まずは有言して取り組まれることが涵養でしょう。

もう一つ付け加えますと、環境負荷の低減について、例えば、CO₂排出量の削減についても鋭意取り組まれていることは確認できました。生産量が増加する場合は、せめて原単位の改善を目指し、生産量が減少する場合は、総量を抑制することをまずは有言してそれに向かって取り組んでいくという環境経営に留意することが望まれます。

御社の環境マネジメントは、良いパフォーマンスを結果として達成されていることが確認できましたので、より高いレベルの目標を設定されて取り組まれば一層素晴らしい成果が期待できるでしょう。

【社会的な取り組み関連】

2015年及び2016年におけるCOP(国連気候変動枠組条約締約国会議)を2年連続で高速大量印刷と高い環境性能で支えています。世界市場で存在感を示す際にシェア争いだけでなく、国内で行ってきた地域に根差し、製品特性を活かした社会貢献と同様に、世界や進出地域が抱える問題の解決に当事者意識を持って直接参画し、理想ブランドらしい誠実な貢献を進めていくことを期待します。

【環境会計関連】

省エネ投資に代表される取り組みは、コスト構造の改善に寄与することが多く、エネルギー需給状況に左右されない企業体質になるためにも、每期一定以上のエネルギー効率改善投資を実現することが望ましいです。設備の定期更新において省エネに配慮した意思決定が行われていますが、過去2か年は削減傾向を決定付けるような省エネ投資は目立たず、2016年度で挽回するほどには至っていません。削減効果の平準化のためにもコンスタントな省エネ投資が望まれます。